

る。(図4)

(二) レタリングとレイアウト

カルトンができあがると、生徒は自分の名前をレタリングする。ここでは、字数は多くなるが、漢字や仮名に比べて比較的単純な形と思われる英文字のレタリングにした。

1 レイアウト

カルトンのどの位置に文字を置  
くか、字体は、どんなものが適当  
か。字の大きさなどを考える。

2 レタリング

(1) 資料の英文字書体例を参考に方  
眼紙にレタリングする。

(2) トレーシングペーパーでスペーシ  
ングしながら文字を書き写す。

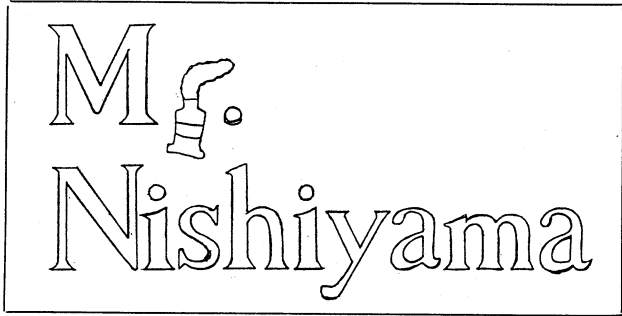
(3) カルトンに転写し、墨入れ完成  
する。

カルトンの制作中は、和気あいあい  
とした雰囲気のうちに進めることがで  
きた。

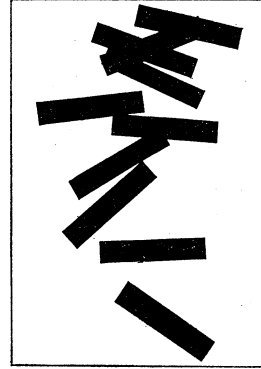
授業を進めるうえで障害になったこ  
とは、リボンや綿テープの購入を忘れ  
た生徒への対応である。作業の手順を  
逆にすることで解決できたが、そうし  
た生徒の授業の遅れはまぬがれなかつ  
た。

問題点のもう一つは、テープを通す  
穴の位置を決めるときに、説明がくど  
すぎて、逆効果になってしまったこと  
である。レタリングは生徒の工夫が見  
られ、しゃれたものができあがった。

(作品例2)



(作品例2)



(作品例1)

レイアウトは、名前を斜めに入れる  
生徒が思いのほか多く、「かっこがい  
い」という返事が返ってきた。生徒の  
感覚がうかがえて面白い。

#### 四 まとめ

美術通信は、一学期中に一五号まで  
発行することができた。カルトンの方  
は、授業の作品整理やクロッキーなど  
の授業で、さっそく活用している。  
生徒がやがて卒業し、部屋の片すみの  
カルトンから、作品や美術通信の幾  
枚かを取り出して見たときの想像を  
見る。どのような思いで作品を見る

かはわからないが、そのときに、良い  
高校生活の思い出の一つになるように  
願ってやまない。

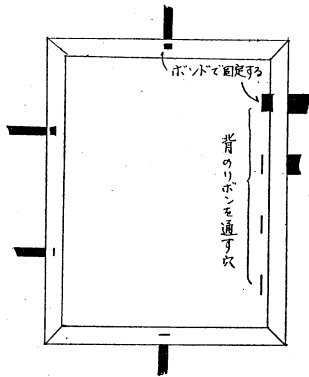


図2

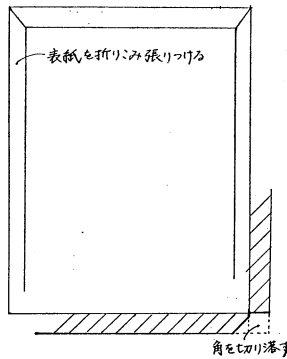


図1

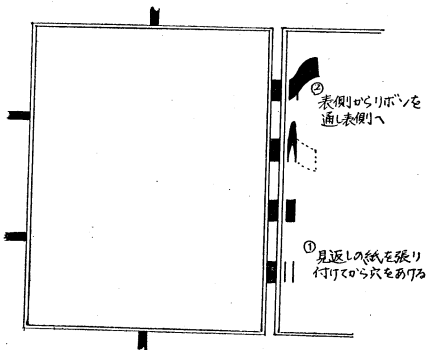


図4

図3

